

V. 岸公園

V-1. 事業概要

(1) 事業概要

岸公園（袖師地区親水湖岸堤）整備の事業概要は以下のとおりである。

表 事業概要

■事業名	宍道湖袖師親水型湖岸堤
■事業分野	河川
■事業の種類	新規事業（背後地の再開発を伴う）
■賞の受賞	2003年デザイン賞最優秀賞
■特に参考となる効果	居住者等の日常的な利用行動の変化
■事業対象・規模	対象：（島根県松江市） 規模：L=約500m、A=約9,000m ²
■事業主体	建設省中国地方整備局出雲工事事務所、松江市
■周辺の関連事業	島根県立美術館整備、夕日スポットの整備
■景観検討の段階	計画・設計・施工
■PIの有無	なし
■事業期間・竣工	平成7年～平成11年
■事業概要	<p>1995年に出雲工事事務所が湖岸堤の改修に伴うプロポーザルコンペを行い、建設省の管理地と、松江市の公園部分、県立博物館の外構部分を一体として緩傾斜の土手として再生する案が受け入れられたことに端を発する。</p> <p>公園や美術館敷地の一部が大雨時には水没することを許容し、河川技術者と都市デザイナー、建築設計者の協同、行政間の垣根を超えた協議によって、「かつての州浜を蘇らし、宍道湖を眺める緩やかな土手をつくる」ことが実現された。</p> <p>美術館の形状から湖面、至近にある嫁ヶ島、対岸の風景まで、シンプルなこの公園のデザインがそれらを一体の風景として連続させており、開放的で親しみやすい水辺空間が創出されている。</p> <p>また、夕日や対岸の夜景を眺めるスポットとしての評価も高い。</p>

(2) 事業対象地位置図

1995年に出雲工事事務所が湖岸堤の改修に伴うプロポーザルコンペを行い、建設省の管理地と、松江市の公園部分、県立博物館の外構部分を一体として緩傾斜の土手として再生する案が受け入れられたことに端を発する。

公園や美術館敷地の一部が大雨時には水没することを許容し、河川技術者と都市デザイナー、建築設計者の協同、行政間の垣根を超えた協議によって、「かつての州浜を蘇らし、宍道湖を眺める緩やかな土手をつくる」ことが実現された。

美術館の形状から湖面、至近にある嫁ヶ島、対岸の風景まで、シンプルなこの公園のデザインがそれらを一体の風景として連続させており、開放的で親しみやすい水辺空間が創出されている。

また、夕日や対岸の夜景を眺めるスポットとしての評価も高い。

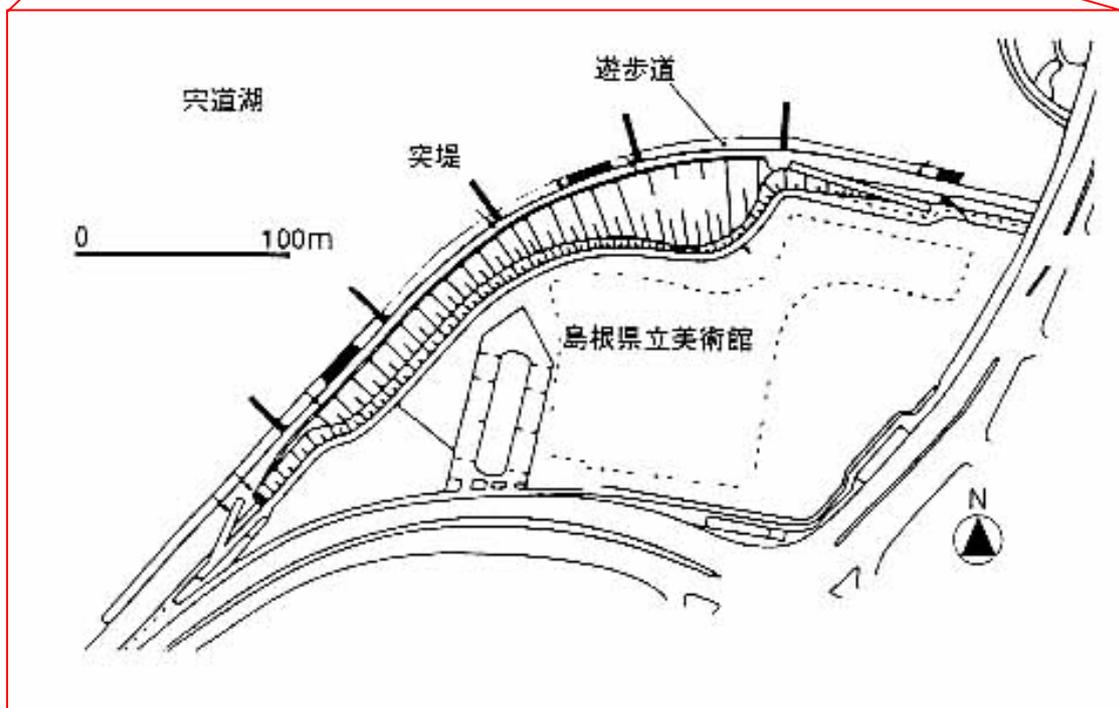


図 事例対象位置図

(3) 岸公園（袖師地区親水湖岸堤）整備の経過

① 岸公園の整備の経緯

旧岸公園と白潟小学校の跡地を一緒にし、県立美術館を誘致した再開発である。白潟小は平成7年3月までで閉校した。事業の検討スタートも平成7年からである。

企画調整課が中心となり、教育委員会、公園緑地課、管財課を含めた検討が行われた。検討の内容は、県立美術館の誘致と国への護岸整備の要請であった。

護岸部分の設計は国の護岸整備で行い、市は公園部分の工事費を負担する形であった。会館横の三角形の部分のみ、岸公園として市が設計を行った箇所である。美術館前は護岸と一緒に国の設計である。

旧堤から管理用動通路の部分までが国の管理であり、その内側が市の緑地であった。現在も底地の所有は変わっていないが、明確なラインは現状の形状には現れていない。一部が共管区域となっている。旧堤の部分は市が占用しており、日常の維持管理を行うが、補修等は国といった区分である。

県立美術館を誘致した関係からも、当初から美術館中心に設計を行おうとの方針であった。

② 岸公園の整備の内容

岸公園自体の工事は、平成10年9月18着工、平成11年2月28日竣工である。美術館と護岸の工事も並行して行われており、工時期間中は公園は供用されていなかった。

面積と事業費については、美術館が9,311m²で112億、岸公園が4,400m²で1.3億、護岸が6,200m²で3.3億である。

③ 夕日スポットの整備の内容

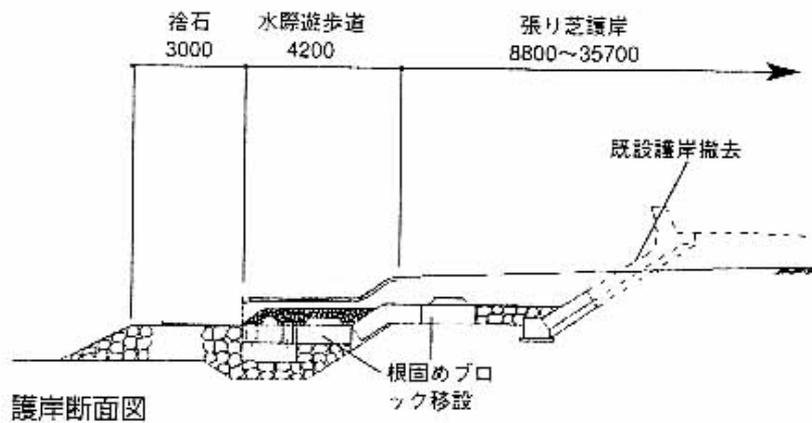
夕日スポットは国の道路事業であり、平成19年3月末に完成したものである。道路対岸の駐車場部分のみ、市の緑地として整備されたものである。夕日スポットのデザインイメージは、岸公園に近いものとなっている。

(4) 設計図面等

■設計図面



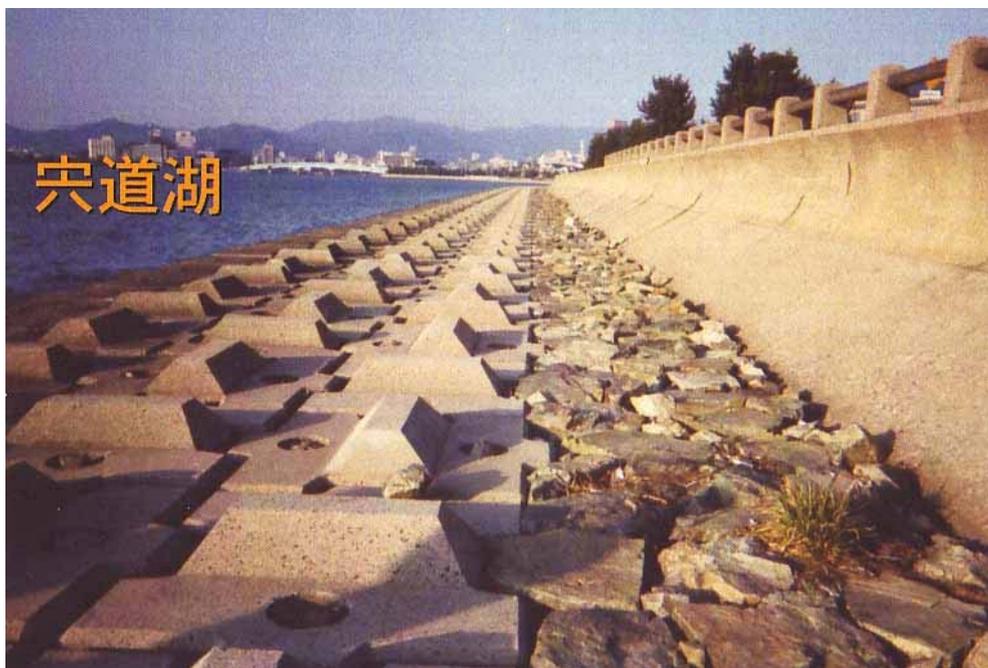
図一計画平面図



図一護岸部断面図

■ 整備前後の写真

(整備前)



(整備後)



IV-2. 計画・設計の意図および期待される効果

(1) 計画・設計の意図

文献調査、地元自治体ヒアリングによる、当該施設の整備の方針及び設計の考え方について以下に記す。

1) 張り芝護岸による水面への自然な連続

美術館敷地からなだらかに湖面に向かう自然の土手のイメージの復元を目指し、緩やかな勾配（最大1：28）と3分程度の勾配の2種類の斜面の組み合わせった張り芝の護岸としている。これは、旧来のコンクリート堤防を撤去し、土手の構造とするに際し、遡上する波の減衰効果や洪水時の河積計算などの技術的な裏付けから導き出されたものでもある。

美術館内部からは水際の固い構造物（石張り遊歩道）が見えないように土手の勾配を工夫し、景観的には芝の斜面が自然に水面につながるような構成としている。

また、緩やかな法面部には彫刻を配し（県設置・占有許可物件）、また上部の法面には、過年の河川法改正によって可能となった堤体への樹木—松江の地域の樹種である松—を植えることで、より自然な風景に納まるように期待している。



写真—水面への自然な連続と芝生広場内に配された彫刻



写真—法面勾配の変化と松の植樹

2) 親水性の高い遊歩道

自然の造りだした緩やかな曲線に沿って、水際の遊歩道を設けている。断面形状は波のエネルギーを減衰させるために必要な高さを有し、水位より低いレベルに敷いた捨石の他に、水際部は平常の水位でも波を受けるため強固な構造とし、遊歩道には空気抜き孔を設けることで洗掘を防止するなどの工夫を施している。

交通弱者の人々も利用できるよう、端部にはスロープを設け、歩道幅は3mを確保、快適に水際を散策できるように表層を自然石張りとした。当初は自然の粗野な石面をイメージしたが、車椅子対策として平滑な仕上げと縁石の立ち上がりを余儀なくされたため、若干綺麗過ぎる嫌いはあるが、いずれ波の力で角がとれてくると考えられている。

また、自然に水に親しむように水面とのレベル差を最小に抑え、かつ柵を設けないような構成とした。



写真－端部に設けられたスロープ



写真－親水性の高い遊歩道

3) 安らぎを与える水際景

護岸の前面に白濁の復元、つまりかつてあった砂浜が自然に造られるように、宍道湖に昔からある松杭と捨石の突堤を設けている。これは、前面の浅瀬がシジミ漁の漁場であるため、自然な砂の定着を促すための生態系に配慮した仕掛けでもある。

また、水面から突出した松杭の上は、水鳥の恰好の休息所ともなっており、これらが美術館を含む全体の景観の中で、一種の安らぎを与えている。



写真－松杭に沿って成長する砂州



写真－松杭で羽を休める水鳥

(2) 期待される効果

1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と地元自治体ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

表 設計意図と期待した効果のまとめ

	意図	景観に配慮した内容	期待される効果
A.張り芝護岸による水面への自然な連続			
1	美術館から公園、護岸、水面までの一体的な整備	○芝生広場を介しての連続した風景の創出 ○勾配を工夫することによる建造物の隠蔽	●新たな水辺空間の創出と利用
2	関連するモチーフの導入	○屋外への彫刻作品の設置 ○松の植栽	
B.親水性の高い遊歩道			
1	高い親水性の確保	○水面に近いレベルでの遊歩道の設置 ○縁石の立ち上がりによる境界の設置(転落防止柵を用いない)	●親水機会の増加
C.安らぎを与える水際景			
1	砂州の形成	○松杭による突堤の設置	●水辺での滞留機会の増加
2	水鳥の飛来	○松杭による突堤の設置	

2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
●新たな水辺空間の創出と利用	○開放感がある ○水辺が近く自然を感じる ○湖の畔に住むことの再確認	○清掃活動の実施 ○水辺でのレクリエーション活動の実施 ○ショッピングなどの目的地までの通り道／通勤・通学路／散歩・ジョギング・ウォーキング／写真撮影・スケッチ／休憩／周りの景色を眺める等の様々な利用の創出	○高度なデザインの周辺施設への波及 ○湖岸公園施設の連帯性の向上
●美術館利用者の立ち寄り	○水辺に近づきたくなる	○滞留時間の増加	○美術館施設における眺望景の向上
●親水機会の増加	○水辺に触れたくなる	○水辺でのレクリエーション活動の実施 ○ショッピングなどの目的地までの通り道／通勤・通学路／散歩・ジョギング・ウォーキング／写真撮影・スケッチ／休憩／周りの景色を眺める等の様々な利用の創出	○自然の再生
●水辺での滞留機会の増加	○夕景がよく見える ○夜景がよく見える ○開放感がある	○周りの景色を眺める利用の創出	

これを踏まえ、各段階における効果の把握について調査を実施した。

IV-3. 調査方法と調査結果

(1) 調査方法

1) 調査の設計

本事例の特性を踏まえ、調査方法について以下のように設計した。

岸公園（袖師地区親水湖岸堤）整備は、事前調査の結果より、地域の住民の利用のみならず、近年、観光資源としての注目度も高まっていることが把握された。このことを踏まえ、地域住民対象のアンケート調査対象者は、地元住民と観光客の両方を対象とすることとした。地域住民対象のアンケート調査対象範囲は、日常的な利用に注目し、調査対象域から500m以内の世帯へのポストイングにより行うこととした。なお、観光客に対するアンケート調査は、隣接する美術館との相乗的な効果を把握することも視野に、島根県立美術館の岸公園との連絡口付近において実施することとした。

ヒアリング調査対象については、行政関係については事業主体である出雲河川事務所の現在及び当時の担当者、地元松江市の公園緑地課に対して行い、整備効果の全般と地域住民の利用動向を捉えることを目標とした。その他、隣接する島根県立美術館に対して、公園整備との相乗的な効果の有無について問うこととした。また、利用団体である地元NPOや、地元カヌー協会へもヒアリングを行うこととした。

さらに、空間の波及効果の有無に着目し、隣接する夕日スポットの整備主体である松江国道事務所に対してもヒアリングを行うこととした。

定点観測調査については、湖岸に心地よい空間が創出されたことと、観光資源としての注目度のアップに着目し、早朝から夕方において、平日及び休日の両日に行うこととした。

表 調査手法と調査内容

調査手法		対象	手法	調査内容
アンケート調査	整備対象箇所周辺の地元住民	半径 500m 以内の配布可能な 1000 世帯 ※回収結果： 360/1000 通 (回収率 36%)	ポストイング	○意識変化 ○活動変化
	観光客	来訪した観光客（平日及び休日の終日に実施） ※回収結果 107 票	現地聞き取り	○活動変化
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者	①国土交通省出雲河川事務所 ②国土交通省松江国道事務所 ③松江市公園緑地課 ④NPO まちづくりネットワーク島根 ⑤松江カヌー協会 ⑥島根県立美術館	訪問ヒアリング	○意識変化 ○活動変化 ○空間変化 ○その他
定点観測調査		平日、休日	—	○活動変化

■ 2. 岸公園及び県立美術館の利用についてお聞きします。

(該当するものに○をつけて下さい。)

5. 岸公園（美術館前の湖岸緑地）の利用回数で、もっとも近いものをお答えください。
- ①ほぼ毎日 ②週に2～3回 ③週1回程度 ④月2～3回
⑤月1回程度 ⑥年数回 ⑦年1回程度 ⑧ほとんど利用しない
6. 岸公園の利用の目的は何ですか？（複数回答可）
- ①散歩・ウォーキング ②ジョギング ③犬の散歩 ④休憩 ⑤子連れでの遊び
⑥通勤・通学・買い物などの日常的な通り道 ⑦釣り ⑧夕日見物
⑨写真撮影やスケッチ ⑩美術館見学の際の休憩等 ⑪美術館のイベントへの参加
⑫清掃活動への参加 ⑬利用しない ⑭その他（ ）
7. 島根県立美術館の利用回数で、もっとも近いものをお答えください。
(展示室の見学その他、レストランなどの付帯施設の利用も含めてお答えください。)
- ①週1回以上 ②月2～3回 ③月1回程度 ④年数回 ⑤年1回程度
⑥数年に1回程度 ⑦利用したことがない

■ 3. 岸公園の印象についてお聞きします。

(該当するものに○をつけて下さい。)

8. 岸公園のどこに魅力を感じますか？（複数回答可）
- ①水辺に近く宍道湖と親しめる場所
②落ち着いた雰囲気
③岸公園からの眺め（宍道湖や嫁ヶ島の眺め、夕日、しじみ漁等）
④芝生広場で遊べること
⑤屋外彫刻があり芸術に触れられること
⑥美術館と一体的に整備されていること
⑦公園と美術館建築のデザイン
⑧白濁公園や夕日スポットと連続して周遊できること
⑨魅力を感じるところはない
⑩その他（ ）

9. 岸公園にどの程度魅力を感じていますか？
AからCの各項目について、1～5のうち最も近いものに○をつけてください。

	1 非常に そう 思う	2 そう 思う	3 あまり 思わ ない	4 全く 思わ ない	5 わか らな い
A 親しみや愛着を感じている					
B 知人が松江に来た時に案内したい					
C 街の顔だと思う					

■ 4. 岸公園と周辺の印象についてお聞きします。

(該当するものに○をつけて下さい。)

10. 次に示す宍道湖の湖岸の中で、もっとも好きな場所はどこですか？
(各公園の名前をご存じない場合は2ページの図をご参照ください。)
- ① 千鳥南公園 (松江しんじ湖温泉前)
 - ② 白潟公園
 - ③ 岸公園 (島根県立美術館前)
 - ④ 宍道湖夕日スポット
 - ⑤ 好きな場所はない
 - ⑥ その他 ()
11. 県立美術館前の湖岸に12個のうさぎの像がありますが、湖から2個目のうさぎの像に触れると幸せが訪れるという噂をご存じですか？
・知っている ・知らない

■ 5. 岸公園に対する印象をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

(観光客用)

月 日 ()
天候： _____ 記入者： _____

調査時刻 _____ :

1. 来訪形態

- ①観光客（個人1人） ②観光客（夫婦・カップル）
③観光客グループ（個人旅行：数人規模） ④観光客団体（観光バス等の利用）
⑤近隣住民個人 ⑥近隣住民グループ・団体

人数 _____ 人

2. お住まい

- ①松江市内 ②近隣（島根・鳥取県内） ③その他
（ _____ ）

3. 来訪頻度

- ①初めて ②（ _____ ）回目 ③頻繁（頻度：毎日・週 回・月 回・年回）

4. 来訪手段

- ・徒歩（自宅・駅・ホテルから） ・自転車 ・マイカー
・バス ・タクシー ・レンタカー ・その他（ _____ ）

5. 今回の来訪目的

- ①美術館見学の有無 有 _____ 無 _____

- ②目的（ _____ ）

- ③散歩等の場合、どこからどこまで歩く予定か

- ・家 ・ホテル ・松江駅 ・白潟公園 ・夕日スポット ・千鳥南公園

6. 公園の印象

- ・高い親水性 ・優れた眺望 ・落ち着いた雰囲気 ・芸術との触れ合い
・都会的で洗練されたデザイン ・開放的な雰囲気

・その他

(2) 調査結果

1) 調査結果概要

事例名称		事業分野・施設所在都道府県	事業主体	事業特性			
V	岸公園 (袖師親水湖岸堤)	河川	島根県	出雲工事・松江市	1999年竣工、新規整備、複合的整備、地域住民の以外の利用あり		
調査結果概要							
調査方法	対象	手法	捉えられた効果				
			意識変化	活動変化	空間変化		
利用者	利用者へのアンケート調査	調査対象地から概ね500m程度までの周辺湖岸寄り1000世帯・回収数:362票(回収率36%)・単純集計終了	ポスティング	①街の顔、大切な場所としての認識 ②親しみや愛着、誇りの創出 ③傍に住むことの幸せの享受	①散策やウォーキングでの利用増	①湖岸のネットワークの強化	
	利用団体へのヒアリング調査	岸公園来訪者・実施107票	聞き取り調査	①岸公園に対する高い好感度 ② 宍道湖の魅力の再認識	①観光客の利用増 ②美術館来館時の利用		
	利用団体へのヒアリング調査	島根県立美術館、松江カーナー協会、嫁ヶ島竹生島神社、NPOまちづくりネットワーク島根	訪問ヒアリング		①カヌー教室の実施 ②カヌーツアー時の立ち寄り ③イベントの開催 ④嫁ヶ島観光振興の期待 ⑤清掃活動の実施 ⑥美術館の来館者増にも影響		
	定点観測調査	平日・休日	岸公園での定点観測及び周辺湖岸公園の巡回調査		①ウォーキングでの利用増 ②観光客の利用増 ③都市伝説の周知		
施設周辺	現地調査 (調査対象建築物・施設の抽出)	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	訪問ヒアリング			湖岸のデザインについては岸公園のものを踏襲	
行政	行政担当者へのヒアリング	出雲河川事務所、松江市公園緑地課	訪問ヒアリング	①行政官の達成感	①美術館との相乗効果で利用者増		
景観整備による効果		具体内容					
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	湖岸の周遊ルートの形成の寄与 高い親水性					
	造形・施設・空間の印象評価	美しい、きれいな、開放的、落ち着いた雰囲気、優れた眺望etc					
利用者行動に与える効果	親しみ・愛着	親しみや愛着を感じているとの回答が多く見られた。他、「大切な場所」、「心の支え」といった回答も見られた。					
	誇り	知人が来た時に案内したい、街の顔だと思おうといった回答が多く見られた。					
施設周辺の空間に与える効果	利用形態・頻度等の変化	散歩・ウォーキング目的に来訪する人が多い。 観光客が多く、観光バスの立ち寄りも見られ、観光スポットとしての位置付けが確立している。 時間帯により利用形態が大きく異なる (朝:ウォーキング等、昼間:子連れでの遊び等、夕方:夕日見物等)					
	商業活動の活性化	美術館の来館者増に貢献している。					
	地域活動の活性化	—					
	環境保全、学習活動	—					
	施設を核とした避難体制の構築	—					
	近隣住民同士の会話の場	—					
	利用ルールの形成	—					
	樹木の手入れ・花壇等の設置	—					
	清掃等の維持管理活動	日常の自発的な清掃活動が行われている。					
	その他	宍道湖うさぎの像が取り持つ縁結びの都市伝説が生まれ、参拝者が多数来訪するようになった。					
その他	商業活動の変化	美術館において岸公園を利用したイベントが行われるようになった。					
	建物ファサード変化	—					
	軒先空間の変化	美術館との連絡動線が追加された。					
	周辺景観の改善	夕日スポットの整備に対する提言が出される一要因となっている。					
	周辺施設の連帯性の向上	湖岸の周遊ルートのネットワーク化に大きく寄与している。					
視点場の形成	宍道湖の夕日を眺める場としての「夕日スポット」が整備された。						
外部評価	土木学会デザイン賞を受賞。						
他事業への波及	夕日スポットの整備への関連性が確認された。						
メディア登用機会の増加	朝のニュース時などにおけるインタビューとして多用されている他、ドラマのロケ地としても複数回利用されている。旅行雑誌に取り上げられる機会も増えている。						



2) 調査結果の整理

調査結果の詳細は以下の通り。

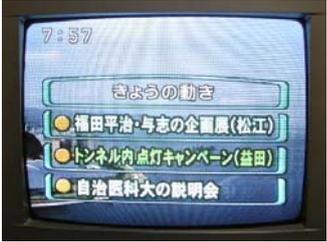
凡例
H：ヒアリング
T：定点観測
A：アンケート

■調査結果

景観整備による効果メニュー	調査結果	結果を得た調査																																	
意識変化	①機能評価	◇岸公園の魅力について ・「湖岸周遊ルートとの連携の強化」(57%) ・「高い親水性」(64%)	A (住民 N=361、現地聞き取り N=107)																																
	②施設・空間の印象評価	◇岸公園に魅力を感じる内容 ・「優れた眺望」(76%) ・「落ち着いた雰囲気」(32%) 他、現地聞き取り調査では、きれい、美しい、良い、とても良い、癒される、気持ち良いなどの好意的な多くの印象が多様な表現で挙げられている。 <div data-bbox="555 855 1238 1361" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>岸公園の印象 (回答数: 236)</caption> <thead> <tr> <th>印象</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きれいな美しい</td> <td>40.18%</td> </tr> <tr> <td>優れた眺望</td> <td>34.15%</td> </tr> <tr> <td>良いとても良い素晴らしい</td> <td>24.10%</td> </tr> <tr> <td>開放的な雰囲気</td> <td>23.10%</td> </tr> <tr> <td>高い親水性</td> <td>17.7%</td> </tr> <tr> <td>落ち着いた雰囲気</td> <td>17.7%</td> </tr> <tr> <td>芸術との触れ合い</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>癒される</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>気持ちいい</td> <td>8.4%</td> </tr> <tr> <td>整備されて良くなった</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>自然との調和</td> <td>5.2%</td> </tr> <tr> <td>周辺との一体感</td> <td>5.2%</td> </tr> <tr> <td>洗練されたデザイン</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>静か</td> <td>3.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>31.13%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	印象	割合	きれいな美しい	40.18%	優れた眺望	34.15%	良いとても良い素晴らしい	24.10%	開放的な雰囲気	23.10%	高い親水性	17.7%	落ち着いた雰囲気	17.7%	芸術との触れ合い	10.4%	癒される	9.4%	気持ちいい	8.4%	整備されて良くなった	8.3%	自然との調和	5.2%	周辺との一体感	5.2%	洗練されたデザイン	2.1%	静か	3.1%	その他	31.13%	A (住民 N=361、現地聞き取り N=107)
	印象	割合																																	
	きれいな美しい	40.18%																																	
	優れた眺望	34.15%																																	
良いとても良い素晴らしい	24.10%																																		
開放的な雰囲気	23.10%																																		
高い親水性	17.7%																																		
落ち着いた雰囲気	17.7%																																		
芸術との触れ合い	10.4%																																		
癒される	9.4%																																		
気持ちいい	8.4%																																		
整備されて良くなった	8.3%																																		
自然との調和	5.2%																																		
周辺との一体感	5.2%																																		
洗練されたデザイン	2.1%																																		
静か	3.1%																																		
その他	31.13%																																		
③親しみ・愛着	・「親しみ、愛着を感じる」(73%) 他、自由回答において、「近所に住むことの幸せの享受」、「大切な場所」、「心の支え」といった回答が見られた。	A (住民 N=361)																																	
④誇り	・知人が松江に来た時に案内したい (73%) ・街の顔だと思う (61%) 他、自由回答において、「共有の財産」、「松江を代表する場所」といった回答が見られた。	A (住民 N=361)																																	
利用者行動に与える効果	◇利用の状況 (岸公園の調査においては、当該事例が再開発的な整備であり、整備前後の様態が著しく異なることから、前後比較は行っていない。) 【アンケート】 ・住民の利用では、散歩・散策・ウォーキングが55%と多く、次いで夕日見物32%、美術館見学時の休憩26%となっている。 ・来訪者への聞き取り調査では、美術館見学21%、夕日見	A (住民 N=361、現地聞き取り N=107) H T																																	

景観整備による効果メニュー	調査結果	結果を得た調査
	<p>物 18%の順となっている。なお、うさぎ参りにしても12%と高い。</p> <div data-bbox="560 389 1243 898" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">来訪の目的</p> <p style="text-align: center;">回答数: 146</p> </div> <p>【定点観測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が多く、観光バスの立ち寄りも見られ、観光スポットとしての位置付けが確立している。 ・時間帯により利用形態が大きく異なる（朝：ウォーキング等、昼間：子連れでの遊び等、夕方：夕日見物等） <div data-bbox="555 1115 1225 1361" style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(写真) うさぎ見物 (左) と夕日見物 (右)</p>	
② 商業活動の活性化	<p>◇美術館の来館者増に貢献している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の来館者が多いことの要因の一つに優れた公園整備があると考えられる。 ・聞き取り調査では公園利用者の21%が美術館の見学目的で来訪した方であった。 	T H A（住民 N=361、現地 聞き取り N=107）
③ 地域活動（イベント・行事）活性化		
④ 環境保全・学習活動	—	
⑤ 施設を核とした避難体制の構築	—	
⑥ 近隣住民同士の会話の場	—	

景観整備による 効果メニュー	調査結果	結果を得た 調査
⑦ 利用ルールの作成	—	
⑧ 樹木の手入れ・花壇等の設置	—	
⑨ 清掃等の維持管理活動	・ 日常の自発的な清掃活動が行われている。	H
その他	<p>・ 宍道湖うさぎの像が取り持つ縁結びの都市伝説が生まれ、参拝者が多数来訪するようになった。</p>  <p>(写真) うさぎ詣での様子</p>	T H

景観整備による効果メニュー		調査結果	結果を得た調査
施設周辺の空間に与える効果	①商業活動の変化	・美術館において岸公園を利用したイベントが行われるようになった。	H
	②建物ファサード変化	—	
	③軒先空間の変化	・美術館が岸公園との連絡口を新に設置した。	H
	④周辺景観の改善	・夕日スポットの整備に対する提言が出される一要因となった。	H
	⑤周辺施設の連帯性の向上	・湖岸の周遊ルートのネットワーク化に大きく寄与している。	H
	⑥視点場の形成	・宍道湖の夕日を眺める場としての「夕日スポット」が整備された。	H
その他	①外部評価	・土木学会デザイン賞大賞を受賞 ・岸公園の整備後に新に整備された夕日スポットは、「全建賞」、「島根景観賞」を受賞している。	H
	②他事業への波及	・夕日スポット整備の提言が出されるきっかけとなった。 ・夕日スポットの整備において、護岸のデザインに岸公園のデザインが踏襲されている。	H
	③メディア登用機会の増加	<p>・朝のニュース時などにおけるインタービジョンとして多用されている他、ドラマのロケ地としても複数回利用されている。</p>   <p>(写真) 朝のニュース時にインタービジョンとして利用される岸公園のお天気カメラ映像 (左) (写真) ドラマのプロモーションのための主演女優のスケジュール撮影の様子 (右)</p>	H T

3) 効果の波及フロー

■ 岸公園の景観整備による効果の波及フロー

